

正誤表

2020年11月12日

- 目次

- xii ページ、9 行目、「分解」を「標準形」にする

- * 誤：ジョルダン分解
- * 正：ジョルダン標準形
- * 事由：節の表題を変更したため

- 準備

- 1 ページ、13 行目、「注 2」を削除

- * 誤：す注 2。
- * 正：す。
- * 事由：注釈の場所を変えるため、注 2 の内容はママ

- 1 ページ、16 行目、文章の差し替え、注 2 をここへ移す

- * 誤：Python3.x version の「Download」ボタンを押してインストーラをダウンロードして
- * 正：32 ビット版または 64 ビット版の Python3.x注 2 のインストーラをダウンロードして
- * 事由：最新の状況に合わせるため

- 1 ページ、下から 7 行目、「.7」を削除する

- * 誤：Python2.7 がプレインストールされて
- * 正：Python2 がプレインストールされて
- * 事由：マイナーバージョンは省略する

- 1 ページ、注 1、「2 月」を「11 月」にする

- * 誤：2020 年 2 月時点
- * 正：2020 年 11 月時点
- * 事由：最新版の日付にするため

- 2 ページ、5 行目、「.7」を削除する

- * 誤：Python2.7 の pip と区別して
- * 正：Python2 の pip と区別して
- * 事由：マイナーバージョンは省略する

- 2 ページ、下から 3 行目、「Medel」を「Model」にする

- * 誤：Raspberry Pi 4 Medel B など
- * 正：Raspberry Pi 4 Model B など
- * 事由：タイポ

- 2 ページ、下から 1 行目、「公式 OS である Raspbian」を「Raspberry Pi OS」に変更

- * 誤：公式 OS である Raspbian には
- * 正：Raspberry Pi OS には
- * 事由：OS の正式名称が変更になったため

- 3 ページ、2 行目、「.7」を削除する

- * 誤 : Python2.7 と Python3.7 の両方が
- * 正 : Python2 と Python3 の両方が
- * 事由 : マイナーバージョンは省略する
- 3 ページ、3 行目、「.7」を削除する
 - * 誤 : Python3.7 をそのまま
 - * 正 : Python3 をそのまま
 - * 事由 : マイナーバージョンは省略する
- 3 ページ、5 行目、「Raspbian」を「Raspberry Pi OS」に変更
 - * 誤 : Raspbian のデフォルトでは
 - * 正 : Raspberry Pi OS のデフォルトでは
 - * 事由 : OS の正式名称が変更になったため
- 3 ページ、11 行目と 12 行目の間に `sudo apt install python3-matplotlib` を追加
 - * 誤 :


```
sudo apt install python3-sympy
(ココ)

sudo apt install jupyter
```
 - * 正 :


```
sudo apt install python3-sympy
sudo apt install python3-matplotlib
sudo apt install jupyter
```
 - * 事由 : matplotlib が同梱されなくなったため
- 3 ページ、15 行目、「MatplotLib, 」を追加
 - * 誤 : SciPy, SymPy, Jupyter
 - * 正 : SciPy, SymPy, MatplotLib, Jupyter
 - * 事由 : matplotlib が同梱されなくなったため
- 3 ページ、16 行目、「MatplotLib, 」を削除
 - * 誤 : NumPy, MatplotLib, PIL はプレインストールされて
 - * 正 : NumPy, PIL はプレインストールされて
 - * 事由 : matplotlib が同梱されなくなったため
- 3 ページ、19 行目、「Raspbian」を「Raspberry Pi OS」に変更
 - * 誤 : Raspberry Pi には Raspbian 以外に
 - * 正 : Raspberry Pi には Raspberry Pi OS 以外に
 - * 事由 : OS の正式名称が変更になったため
- 3 ページ、19 行目、「Mate」を削除
 - * 誤 : Ubuntu Mate という
 - * 正 : Ubuntu という
 - * Ubuntu 公式ディストリビューションが Raspberry Pi 対応になり、Raspberry Pi Imager からインストールできるようになったため
- 3 ページ、20 行目、「Mate」を削除
 - * 誤 : Ubuntu Mate を
 - * 正 : Ubuntu を
 - * Ubuntu 公式ディストリビューションが Raspberry Pi 対応になり、Raspberry Pi Imager からインストールできるようになったため
- 3 ページ、注 6、「February」を「August」にする

- * 誤：February 2020
- * 正：August 2020
- * 事由：最新版の日付にするため
- 4 ページ、注 10、「.7」を削除する
 - * 誤：Python2.7 が立ち上がります
 - * 正：Python2 が立ち上がります
 - * 事由：マイナーバージョンは省略する
- 7 ページ、注 20、「Python3 のマイナーバージョンである」を追加する
 - * 誤：Pythom3.8 では
 - * 正：Python3 のマイナーバージョンである Pythom3.8 では
 - * 事由：マイナーバージョンは省略することにしたが、ここでは省略できないので
- 10 ページ、下から 5 行目、「.7」を削除する
 - * 誤：Python2.7 の pip コマンドと区別するため
 - * 正：Python2 の pip コマンドと区別するため
 - * 事由：マイナーバージョンは省略する
- 11 ページ、5 行目、「Raspbian」を「Raspberry Pi OS」にする
 - * 誤：Raspbian には
 - * 正：Raspberry Pi OS には
 - * 事由：OS の正式名称が変更になったため
- 16 ページ、8 行目、「Jupyter」を「Jupyter」にする
 - * 誤：Jupyter Notebook という
 - * 正：Jupyter Notebook という
 - * 事由：タイポ
- 16 ページ、12 行目、「する」を補う
 - * 誤：クリックと立ち上がります
 - * 正：クリックすると立ち上がります
 - * 事由：タイポ
- 17 ページ、1 行目、「/」を削除
 - * 誤：notebook/ というフォルダ
 - * 正：notebook というフォルダ
 - * 事由：タイポ。なお、18 ページ、2 行目の「notebook/」は Web ブラウザのタブ表示と合致しているため、ママとする。
- 18 ページ、下から 5 行目、「7.6.0」を「7.6.1」にする
 - * 誤：(執筆時点での最新バージョン 7.6.0)
 - * 正：(執筆時点での最新バージョン 7.6.1)
 - * 事由：最新の状況に合わせるため
- 23 ページ、6 行目、「Raspbian」を「Raspberry Pi OS」にする
 - * 誤：公式 OS である Raspbian は
 - * 正：Raspberry Pi OS は
 - * 事由：OS の正式名称が変更になったため
- 23 ページ、15 から 17 行目にかけて、文章の変更
 - * 誤：まれにエラーが起きるという問題があります。例えば、本書の執筆時点では、第 2 章で `scipy.io.wavfile` をインポートするときにエラーが起きます。
 - * 正：まれにエラーが起きたり、32 ビット版では最新の外部ライブラリがうまくインストールで

きないことがあったりという問題があります。

- * 事由：最新の環境に合わせるため
- 23 ページ、下から 14 行目から 12 行目にかけて、文章の変更
 - * 誤：無視できる状況になると思いますが、本書では現在のところ 32 ビット版の選択を推奨します。Anaconda にも 32 ビット版と 64 ビット版が用意されていますが、こちらは 64 ビット版を選択して構いません。Anaconda の場合は、
 - * 正：無視できる状況になると思いますが、ひとまず Python や外部ライブラリのバージョンを下げてもインストールすれば解決できることもあります^{注 27}。Anaconda にも 32 ビット版と 64 ビット版が用意されていますが、Anaconda の場合は、
 - * 事由：最新の環境に合わせるため
- 23 ページ、注 27 を加える
 - * 注 27 0.9 節で触れた VPython のダウングレード方法を参考にしてください。
- 第 1 章 数学の基礎と Python による表現
 - 46 ページ、9 行目、「第 1 章以降」を「第 3 章以降」にする
 - * 誤：この節では、第 1 章以降で
 - * 正：この節では、第 3 章以降で
 - * 事由：実際に使われるのは第 3 章以降のため
- 第 2 章 線形空間と線形写像
 - 64 ページ、注 1、「コーディング」を「コーディング」にする
 - * 誤：コーディングスタイル
 - * 正：コーディングスタイル
 - * 事由：タイポ
 - 65 ページ、下から 11 行目、「comp.py」を「cfunc.py」にする
 - * 誤：プログラム comp.py
 - * 正：プログラム cfunc.py
 - * 事由：プログラムの名前 comp.py が他 (p.55) に使われていたため
 - 66 ページ、5 行目、「12 行目」を「10 行目」にする
 - * 誤：8~12 行目...
 - * 正：8~10 行目...
 - * 事由：タイポ
 - 73 ページ、下から 7 行目、「データ」を「Data」にする
 - * 誤：11 行目...y は、データの
 - * 正：11 行目...y は、Data の
 - * 事由：タイポ
 - 73 ページ、下から 6 行目、「変換しています」を「変換したアレイです」にする
 - * 誤：実数に変換しています。
 - * 正：実数に変換したアレイです。
 - * 事由：文章が正確ではなかったため
 - 74 ページ、3 行目、「1+100dt 秒」を「1.01 秒」にする
 - * 誤：1 秒後から秒まで 1+100dt
 - * 正：1 秒後から 1.01 秒まで
 - * 事由：dt の説明がなく意味がわかりづらいため

- 84 ページ、5 行目、「 $-2/y$ 」を「 $-2y$ 」にする
 - * 誤： $x = -2/y$
 - * 正： $x = -2y$
 - * 事由：タイポ
- 85 ページ、下から 5 行目、「 X 」を「 $X = \{a_1, a_2, \dots, a_n\}$ 」にする
 - * 誤： X
 - * 正： $X = \{a_1, a_2, \dots, a_n\}$
 - * 事由：記入漏れ
- 第3章 基底と次元
 - 94 ページ、6 行目、「 x 」を「 x_1 」にする
 - * 誤：なので、 $v = (a_1x + a_2x_2)$
 - * 正：なので、 $v = (a_1x_1 + a_2x_2)$
 - * 事由：タイポ
 - 96 ページ、下から 4 行目、「8 行目」を「7 行目」にする
 - * 誤：8 行目 …
 - * 正：7 行目 …
 - * 事由：タイポ
- 第4章 行列
 - 101 ページ、2 行目、「23 行目」を「22 行目」にする
 - * 誤：18 行目～23 行目 …
 - * 正：18 行目～22 行目 …
 - * 事由：タイポ
 - 103 ページ、注 5、「シユアー積」を「シユア積」に変える
 - * 誤：シユアー積
 - * 正：シユア積
 - * 事由：シユア積の方が一般的であるため
 - 103 ページ、注 6、「第 0 章」を「準備の章」にする
 - * 誤：第 0 章で使い方を説明
 - * 正：準備の章で使い方を説明
 - * 事由：第 0 章がないため
 - 107 ページ、プログラム lena4.py の上 3 行目、「lena.py」を「lena1.py」にする
 - * 誤：第 1 章の lena.py を実行して作成したファイル
 - * 正：第 1 章の lena1.py を実行して作成したファイル
 - * 事由：タイポ
 - 108 ページ、下から 10 行目、「標準基底による」を追加
 - * 誤：線形写像の行列表現
 - * 正：線形写像の標準基底に関する行列表現
 - * 事由：問題が条件不足で不完全であったため
 - 116 ページ、プログラム latex2.py の 1 行目から 12 行目までのコードをそっくり差し替える
 - * 誤：


```
from numpy.random import randint, choice
from sympy import Matrix, latex
```

```

template = '''
\\begin{align*}
(1) & %s%s = \\ \\ \\ \\
(2) & %s%s = \\ \\ \\ \\
(3) & %s%s = \\ \\ \\ \\
(4) & %s%s = \\ \\ \\ \\
(5) & %s%s = \\ \\ \\ \\
\\end{align*}
'''

```

* 正 :

```

from numpy.random import choice
from sympy import Matrix, latex

```

```

template = r'''
\\begin{array}{l}
(1) & %s%s = \\ \\
(2) & %s%s = \\ \\
(3) & %s%s = \\ \\
(4) & %s%s = \\ \\
(5) & %s%s = \\ \\
\\end{array}
'''

```

* 事由 : P.20 の `template.tex` に出力をコピペしてコンパイルするとエラーが出るためと、読みやすくするため。5 行目の `l1` はエルが二つ。

– 116 ページ、下から 4~2 行目、文章の差し替え

* 誤 : ただし、Python のコード上ではバックスラッシュは後続の文字と組み合わせて特殊な文字を表し、バックスラッシュを 2 文字続けることで 1 文字のバックスラッシュを表します。

* 正 : Python の文字列では `\` はエスケープシーケンスとして後続の文字と組み合わせて特殊な文字を表しますが、引用符の前に `r` を付けた文字列では `\` は単なる文字として扱われます。

* 事由 : 上のプログラムコードの差し替えに伴う説明の変更

– 121 ページ、3 行目、 B を A に変える

* 誤 : $V^{-1}BV$

* 正 : $V^{-1}AV$

* 事由 : タイポ

● 第 5 章 行列の基本変形と不変量

– 129 ページ、下 2 行目、「平行四面体」を「平行六面体」に変更

* 誤 : 平行四面体

* 正 : 平行六面体

* 事由 : 間違い

– 132 ページ、下から 6 行目、「2 行目と 3 行目」を「1 行目と 2 行目」にする

* 誤 : B の 2 行目と 3 行目を入れ替えました。

* 正 : B の 1 行目と 2 行目を入れ替えました。

- * 事由：タイポ
- 134 ページ、下から 2 行目、「列」を「行」に変更
 - * 誤：
$$\begin{array}{c} 3 \text{ 列目} - 2 \text{ 列目} \times \frac{5}{4} \\ \longrightarrow \end{array}$$
 - * 正：
$$\begin{array}{c} 3 \text{ 行目} - 2 \text{ 行目} \times \frac{5}{4} \\ \longrightarrow \end{array}$$
 - * 事由：タイポ
- 137 ページ、注 4 の後半の文章を差し替える
 - * 誤：det は determinant の略です。意味は違いますが、2 次方程式の判別式も同じ英語が使われます。
 - * 正：det は determinant の略です。似たような用語に discriminant があり、これは 2 次方程式の判別式 D を意味します。
 - * 事由：説明が間違いのため
- 142 ページ、2 行目、行列の記号を行列式の記号に変える
 - * 誤：
$$\left[\begin{array}{ccc} 1 & 1/2 & 1 \\ 0 & 2 & 2 \\ 3 & 2 & 3 \end{array} \right]$$
 - * 正：
$$\left| \begin{array}{ccc} 1 & 1/2 & 1 \\ 0 & 2 & 2 \\ 3 & 2 & 3 \end{array} \right|$$
 - * 事由：タイポ
- 144 ページ、3 行目、「行列の」を削除
 - * 誤：次のプログラムは、**行列**の行列式を計算する
 - * 正：次のプログラムは、行列式を計算する
 - * 事由：言い方がくどいため
- 149 ページ、12 行目、「第 2 章」を「第 3 章」に変える
 - * 誤：第 2 章で説明しました
 - * 正：第 3 章で説明しました
 - * 事由：タイポ
- 151 ページ、下から 11~9 行目、字下げをつける
 - * 誤：


```
>>> A = Matrix([[1, 2, 3, 2, 0, 0],
                  [2, 3, 1, 0, 1, 0],
                  [3, 1, 3, 0, 0, 1]])
```
 - * 正：


```
>>> A = Matrix([[1, 2, 3, 2, 0, 0],
                  [2, 3, 1, 0, 1, 0],
                  [3, 1, 3, 0, 0, 1]])
```
 - * 事由：タイポ（字下げの幅はおよそでよい）。下は実際の出カイメージ


```
>>> from sympy import Matrix
          >>> A = Matrix([[1, 2, 3, 2, 0, 0],
                      [2, 3, 1, 0, 1, 0],
                      [3, 1, 3, 0, 0, 1]])
          >>> |
```
- 152 ページ、14 行目、「2 行目」を「3 行目」に変える

- * 誤：2行目 ÷18
- * 正：3行目 ÷18
- * 事由：タイポ
- 152 ページ、下から 8 行目、「+」を「-」に変える
 - * 誤：2行目 + 3行目 ×5
 - * 正：2行目 - 3行目 ×5
 - * 事由：タイポ
- 153 ページ、10 行目、「問 5.5」を「問 5.6」に変える
 - * 誤：問 5.5 で用いた行列式
 - * 正：問 5.6 で用いた行列式
 - * 事由：タイポ
- 153 ページ、下から 9 行目、「 A が正則行列のとき、」を「このとき、」に変える
 - * 誤：といます。 A が正則行列のとき、
 - * 正：といます。このとき、
 - * 事由： A が正則行列である条件は不要のため
- 第 6 章 内積とフーリエ展開
 - 162 ページ、7,8 行目、文章の差し替え
 - * 誤：正規直交系 $\{e_1, e_2, \dots, e_n\} \subseteq V$ が V を生成するとき、この正規直交系を V の正規直交基底であるといいます。
 - * 正： $\{e_1, e_2, \dots, e_n\}$ が正規直交系でありかつ V を生成するならば、 $\{e_1, e_2, \dots, e_n\}$ は V の正規直交基底となります。
 - * 事由：正規直交基底の定義が既にあったため
 - 163 ページ、下から 10 行目、「未満の 0 以上の数は 0」を「以上の数を正の数」にする
 - * 誤： 10^{-15} 未満の 0 以上の数は 0 であるとみなしています。
 - * 正： 10^{-15} 以上の数を正の数であるとみなしています。
 - * 事由：プログラムの条件節に合わせるため
 - 166 ページ、下から 5 行目、「第 0 章」を「第 1 章」にする
 - * 誤：第 0 章で作った画像データ
 - * 正：第 1 章で作った画像データ
 - * 事由：タイポ
 - 167 ページ、下から 3 行目、「部分空間」を「有限次元部分空間」にする
 - * 誤：部分空間になります、部分空間の直交補空間に対しては、
 - * 正：部分空間になります、有限次元部分空間の直交補空間に対しては、
 - * 事由：有限次元がないと一般に成立しないため
 - 170 ページ、7 行目、「6 行目」を「8 行目」にする
 - * 誤：4~6 行目 …
 - * 正：4~8 行目 …
 - * 事由：タイポ
 - 170 ページ、7 行目、「数値積分」を補う
 - * 誤：渡します。には、中点公式を用いる
 - * 正：渡します。数値積分には、中点公式を用いる
 - * 事由：脱字があったため
 - 171 ページ、下から 7 行目、「 σ 」を「sigma」にする

- * 誤：標準偏差が σ の正規分布
 - * 正：標準偏差が σ の正規分布
 - * 事由： σ が他に使われていないのでプログラムのコードに合わせるため
 - 172 ページ、7 行目、「振幅数」を「振動数」にする
 - * 誤：振幅数
 - * 正：振動数
 - * 事由：用語が不適切であったため
 - 172 ページ、下から 10, 9 行目、「 g 」を「 f 」にする
 - * 誤：関数 g の定義域 $[0, 1]$ を n 等分した点を $0 = t_1 < t_2 < \dots < t_{n-1} < 1$ として、 n 次元ベクトル $\mathbf{g} = (g(t_0), g(t_2), \dots, g(t_{n-1}))$ を関数 g の代わりに考え
 - * 正：関数 f の定義域 $[0, 1]$ を n 等分した点を $0 = t_1 < t_2 < \dots < t_{n-1} < 1$ として、 n 次元ベクトル $\mathbf{f} = (f(t_0), f(t_2), \dots, f(t_{n-1}))$ を関数 f の代わりに考え
 - * 事由：プログラムやその解説に記号を合わせるため
 - 173 ページ、下から 9 行目、「18」を「17」にする
 - * 誤：14~18 行目 …
 - * 正：14~17 行目 …
 - * 事由：タイポ
 - 174 ページ、下から 5 行目、「 g 」を「 f 」にする
 - * 誤： f_K のグラフを g のグラフに
 - * 正： f_K のグラフを f のグラフに
 - * 事由：プログラムやその解説に記号を合わせるため
 - 177 ページ、下から 6 行目、表の (4) の列 3 段目「 e^x 」を「 e^{-x} 」にする
 - * 誤： e^x
 - * 正： e^{-x}
 - * 事由：タイポ
 - 178 ページ、下から 11 行目、「不等式」を「多項式」にする
 - * 誤：チェビシエフ不等式
 - * 正：チェビシエフ多項式
 - * 事由：タイポ
 - 179 ページ、下から 7 行目、「を」を補う
 - * 誤：積分区間 x^2 とします。
 - * 正：積分区間 x^2 とします。
 - * 事由：タイポ
 - 188 ページ、9 行目、「実」を削除
 - * 誤：実パワースペクトル
 - * 正：パワースペクトル
 - * 事由：パワースペクトルが実数であることは明かであるため
 - 190 ページ、下から 8 行目、「接頭辞」を「接頭語」にする
 - * 誤：そのオブジェクト名を接頭辞にし、
 - * 正：そのオブジェクト名を接頭語にし、
 - * 事由：表記ゆれがあったため
- 第 7 章 固有値と固有ベクトル
- 194 ページ、10 行目、同じ式の重複、後の $(\mathbf{y}^* \mathbf{A}^*) \mathbf{x}$ を $\mathbf{y}^* (\mathbf{A}^* \mathbf{x})$ に変更

- * 誤 : $(\mathbf{y}^* \mathbf{A}^*) \mathbf{x} = (\mathbf{y}^* \mathbf{A}^*) \mathbf{x}$
- * 正 : $(\mathbf{y}^* \mathbf{A}^*) \mathbf{x} = \mathbf{y}^* (\mathbf{A}^* \mathbf{x})$
- * 事由 : 同じ式の重複のため
- 198 ページ、12 行目、「 $h(x)$ 」を「 $|h(x)|$ 」にする
 - * 誤 : $h(x)$ の最小値が 1
 - * 正 : $|h(x)|$ の最小値が 1
 - * 事由 : 絶対値記号の脱落ため
- 204 ページ、実行結果中の最後の行末の a を除く
 - * 誤 : 2.22044605e-16] a
 - * 正 : 2.22044605e-16]
 - * 事由 : タイポ
- 205 ページ実行例中の 2 行目から 4 行目にかけて、\n は印字せずここで改行して下の行に続ける
 - * 誤 :


```
>>> f()
det(A - lmd*I) = (lmd - 4)*(lmd + 1)*(lmd + 5)\nA = Matrix([[ -2, -1, -1], [-2, 3,
-3],
[-2, -2, -3]])
Matrix([
[-2, -1, -1],
[-2, 3, -3],
[-2, -2, -3]])
```
 - * 正 :


```
>>> f()
det(A - lmd*I) = (lmd - 4)*(lmd + 1)*(lmd + 5)
A = Matrix([[ -2, -1, -1], [-2, 3, -3], [-2, -2, -3]])
Matrix([
[-2, -1, -1],
[-2, 3, -3],
[-2, -2, -3]])
```
 - * 事由 : 適切に改行コードが反映されていなかったため。下は実際の実出力イメージ


```
>>> f()
det(A - lmd*I) = (lmd - 4)*(lmd + 1)*(lmd + 5)
A = Matrix([[ -2, -1, -1], [-2, 3, -3], [-2, -2, -3]])
Matrix([
[-2, -1, -1],
[-2, 3, -3],
[-2, -2, -3]])
>>>
```
- 207 ページ、3 行目、[と]を追加
 - * 誤 : A = Matrix((ココ)[-2, -1, -1], [-2, 3, -3], [-2, -2, -3](ココ))
 - * 正 : A = Matrix([[-2, -1, -1], [-2, 3, -3], [-2, -2, -3]])
 - * 事由 : 脱字があったため
- 209 ページ、2 行目、「固有値」を「固有ベクトル」に変える
 - * 誤 : 固有値
 - * 正 : 固有ベクトル

- * 事由：タイポ
- 215 ページ、14 行目、「, 19 行目」を追加
 - * 誤：16, 17 行目 …
 - * 正：16, 17, 19 行目 …
 - * 事由：脱字があったため
- 215 ページ、15 行目、「19 行目」を「20 行目」にする
 - * 誤：18, 19 行目 …
 - * 正：18, 20 行目 …
 - * 事由：タイポ
- 218 ページ、11 行目、「,」を「。」にする
 - * 誤：ノルムが一致します、正規行列ではない
 - * 正：ノルムが一致します。正規行列ではない
 - * 事由：タイポ
- 221 ページ、下から 5 行目、「E」を「exp」に変更
 - * 誤：`>>> from sympy import Matrix, E, var`
 - * 正：`>>> from sympy import Matrix, exp, var`
 - * 事由：Python3.8 の SymPy で、222 ページ 4 行目がエラーになるため
- 222 ページ、4 行目、「E**A」を「exp(A)」に変更
 - * 誤：`>>> E**A`
 - * 正：`>>> exp(A)`
 - * 事由：Python3.8 の SymPy で、E**A がエラーになるため
- 第 8 章 ジョルダン標準形とスペクトル集合
 - 225 ページ、下から 3 行目、「分解」を「標準形」に変更
 - * 誤：8.2 ジョルダン分解
 - * 正：8.2 ジョルダン標準形
 - * 事由：節の表題として適切ではなかったため
 - 236 ページ、下から 11 行目、「の」を「を」にする
 - * 誤： i 行目から j 行目の引く操作
 - * 正： i 行目から j 行目を引く操作
 - * 事由：タイポ
- 第 9 章 力学系
 - 259 ページ、下から 4 行目、「を」を削除
 - * 誤：行列の指数関数を望み通りに計算をしてくれます。
 - * 正：行列の指数関数を望み通りに計算してくれます。
 - * 事由：タイポ
 - 261 ページ、7 行目、「遷移」を「推移」にする
 - * 誤：状態遷移図では、
 - * 正：状態推移図では、
 - * 事由：タイポ
 - 276 ページ、下から 1 行目、「異差」を「差異」にする
 - * 誤：多少の異差があります。
 - * 正：多少の差異があります。

- * 事由：タイポ
- 第10章 線形代数の応用と発展
 - 280 ページ、注 2、「似たように」を「同様に」にする
 - * 誤：三角関数と似たように
 - * 正：三角関数と同様に
 - * 事由：タイポ
 - 281 ページ、図 10.1 の見出し、「左:linalg.lstsq、右:linalg.solve」を「左:linalg.solve、右:linalg.lstsq」に入れ替える
 - * 誤：左:linalg.lstsq、右:linalg.solve
 - * 正：左:linalg.solve、右:linalg.lstsq
 - * 事由：タイポ
 - 283 ページ、下から 1 行目、「 \mathbb{R} 」を「 \mathbb{K} 」に変更
 - * 誤： $x \in \mathbb{R}^n$
 - * 正： $x \in \mathbb{K}^n$
 - * 事由：タイポ
 - 284 ページ、2 行目、「 \mathbb{R} 」を「 \mathbb{K} 」に変更
 - * 誤： $y \in \mathbb{R}^m$
 - * 正： $y \in \mathbb{K}^m$
 - * 事由：タイポ
 - 284 ページ、下から 6 行目、「 \mathbb{R} 」を「 \mathbb{K} 」に変更
 - * 誤： $y \in \mathbb{R}^n$
 - * 正： $y \in \mathbb{K}^n$
 - * 事由：タイポ
 - 285 ページ、8 行目、「の」を補う
 - * 誤：中でノルムが最小ものとなります。
 - * 正：中でノルムが最小のものとなります。
 - * 事由：タイポ
 - 291 ページ、注 7、「(outer product)」を補い、文末を「あるためです」と変える。
 - * 誤：テンソル積を外積ということもあります。
 - * 正：テンソル積を外積 (outer product) ということもあるためです。
 - * 事由：outer 関数の注釈として適切にするため
 - 310 ページ、下から 3 行目、「1」を「3」に変更
 - * 誤： $i = 2, 1, \dots, n$
 - * 正： $i = 2, 3, \dots, n$
 - * 事由：タイポ
 - 312 ページ、下から 10 行目、文章表現の変更
 - * 誤：直前に X_{k-1} を推定した Z_{k-1} から
 - * 正：時刻 $k-1$ における X_{k-1} の推定値 Z_{k-1} から
 - * 事由：わかりにくい表現だったため
 - 315 ページ、下から 9 行目、「9~16 行目」を「8~15 行目」にする
 - * 誤：9~16 行目
 - * 正：8~15 行目
 - * 事由：タイポ

- 索引

- 324 ページ、”し”の項「シュアー積」を「シューア積」に変える

- * 誤：シュアー積

- * 正：シューア積

- * 事由：p.103 の変更による

- 324 ページ、”せ”の項「正規直交基底」の p.162 引用を削除

- * 誤：160, 162

- * 正：160

- * 事由：正規直交基底の定義がダブっていたため